

新型コロナウイルス感染症と各国のセカンドウェーブについて

シンガポールにおけるコロナの現況について

新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、新規感染者の大多数を占める外国人単純労働者向けドミトリー（居住施設）の全入居者に対する検査が8月上旬に完了したと報道がありました。これに伴い8月11日には新規感染者が4月6日以降、約4ヶ月ぶりに、二桁台に低下しました。また、検査及びドミトリーの消毒・清掃の完了により感染リスクに対する安全性が確保されることで、国内の建設事業の大半が8月中に再開されることとなっています。この他、政府は、結婚式の開催について最大50名までの参加を認めたほか、宗教儀式も段階的に開催を許可する方針と聞いています。

こうした中、8月9日はシンガポールの55年目の建国記念日でした。例年は中心地にある広場に会場を作り、盛大に執り行われておりましたが、今年は一部の招待客を除き、メイン会場では無観客で行われました。その代わりに、テレビやネットでLIVE中継が行われ、国民が自宅から楽しむことができるようプログラムが組まれ、空軍戦闘機の編隊飛行や、戦車が島内4ルートを走るなど、国全体で建国記念日をお祝いしていました。



無観客で行われるメイン会場セレモニーと島内を走る戦車（CANより）

各国のコロナ対策にかかる罰則について

シンガポール政府は8月7日、新型コロナウイルスの感染予防規定を巡り、違反者3人を起訴したと発表しました。うち2人は、5日間の病気休暇取得の認定と自宅待機を命じる診断書(MC)を医療機関から受け取ったにもかかわらず、期間内に外出していたとのこと。(シンガポールでは2月14日以降、原則、風邪など急性呼吸器感染症の症状で医療機関を受診した患者に対し、一律でMCを付与し、5日間の病気休暇取得の認定と自宅待機が命じられています。MC取得期間中に外出した人は、最大1万Sドル(約77万円)の罰金または最長6カ月の禁錮刑、あるいはその両方が科せられます。)残る1人は、14日間の外出が禁止される自宅待機措置(SHN)の対象となっていたにもかかわらず、外出した罪を問われました。英国から入国後のSHN期間中に飲食店を訪れたほか、医療機関を受診し、虚偽の渡航歴を報告するなどしていたことが判明したためです。

マレーシアでは、8月1日から、公共交通機関と小売店や外食店、モスクなど混雑する公共の場でのマスク着用が義務化され、違反者には罰金1,000リンギット(約2万5千円)が科せられたほか、国内全ての施設を対象に政府の新型コロナウイルス感染症対策アプリの導入が義務付けられることとなりました。こうした中、これまで新型コロナウイルス感染症の抑え込みに成功していたと見なされてきた北部3州で感染が広がっています。クダ、ペルリス、ペナンの3州は2カ月以上にわたり、日別の新規感染者数ゼロを記録していたが、インドからの入国者1人に端を発するクラスターが発生し、8月10日までに感染者数は45人に拡大しました。この入国者は空港での検査は陰性だったものの、その後陽性であることが判明。入院前に外出し、自身が経営するレストランなどへ出かけたため、従業員や客に感染が広がったとみられています。感染拡大を受け、クダ州は8月3日から州内4地域において地方自治体による封鎖措置「強化された活動制限令(PKPD)」を発令し、ペルリス州も同8日から2つの村に対してPKPDが敷かれました。

一方で、ジョホール州では8月9日、新型コロナ感染抑止のための隔離義務を怠ったインドネシア人に対し、5日間の拘留と罰金4,000リンギ(約10万1,000円)の実刑判決を言い渡しました。これは新型コロナの隔離措置をとらなかったことに対するマレーシア初の実刑判決です。このインドネシア人女性は、インドネシアからクアラルンプール国際空港に入国し、14日間の隔離措置を命じられました。しかし、隔離

期間中に隔離施設から抜け出したとのこと。女性は、病気の息子の世話をするため抜け出したと減刑を訴えたが、認められず実刑判決になりました。（違反者は最大2年の禁錮刑か罰金、または両方が科されます。）



東南アジア諸国の感染者の状況 (8/13、CNA)

最新の情報はこちら <https://infographics.channelnewsasia.com/covid-19/map.html>

日本とシンガポールとのビジネス目的での往来再開に向けて

8月13日茂木外相とシンガポールの外相とが会談し、9月上旬からビジネス目的での短期の往来などの再開を目指すことについて合意がなされました。日本にとってこうした往来の再開に向けた合意は初めてのものであり、往来が再開した後は、PCR検査による陰性証明や行動計画の提出を条件に、2週間の待機が免除される予定と聞いています。こうしたコロナへの対策を行なった上でビジネス目的での往来が進むことで1日でも早く経済が回復することを願っています。

世界各国でワクチンの治験が始まっているなどの朗報を耳にするケースが増えてきましたが、まずは、個々の感染予防対策が重要です。お一人お一人の心がけを大切に行動していきましょう。また、お困りごと等ございましたら何なりとご連絡ください。